

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400175		
法人名	有限会社 介護サービス朋友		
事業所名	ほうゆう・和の家		
所在地	日田市上城内町4-12		
自己評価作成日	令和3年8月24日	評価結果市町村受理日	令和3年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%7B022%7D&kani=true&JigyosyoCd=4490400175-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番 4-110号 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和3年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に入居者様本位を念頭に置き、業務内容を見直し、可能な限りその人らしさを尊重するようにしています。個別な関わりを基本にし、午前中は体操や運動の体力作りと、趣味や好きなことを自由にできるように支援しています。午後は集団でゲームや創作活動などのグループでの活動を勧め、他者との円滑な関わるを支援しています。お互いに助け合うことや認め合うことで、穏やかな集団生活が送れるように努めています。また外出ができず、閉鎖的な生活を余儀なくされていることで、事業所内での楽しみを増やしました。毎週のドリンクバーと月1回の喫茶店のオープン、おやつ作りの日、手作りご飯の日、誕生会など、入居者様の発語や笑顔、表情を引き出すことに、スタッフにも喜びを感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は理念「～自分らしく、笑顔・喜びのある生活を送る～」を基本に、家庭的で落ち着いたくつろぎの空間を実現し、自由で楽しい生活の支援を目指しています。近隣には公民館・小学校等の公共施設もあり、利便性に優れた環境に位置しています。現在はコロナの問題で、面会・外出・地域交流等が困難な中、管理者・職員は利用者がストレスを感じない様、工夫を凝らし支援に当たっています。道路側の窓に利用者手作りの作品や趣味(習字・ぬり絵)等を掲示し道行く近隣の方々を目を楽しませる等地域交流に繋がっています。事業所内では、催し物(レクリエーション)の回数を多くし、週1回のドリンクバー・月1回の喫茶の日(会議室を模様替え)では利用者はおしゃれや化粧を施し、音楽や会話を楽しむ機会を提供する等工夫しています。利用者には大変好評で喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念があり、毎朝唱和することで意識を高め、実践に活かせるようにしている。	開設当時の理念を大切に、朝礼時に唱和することで、理念の共有に努めるとともに、管理者と職員は、理念が実践できているかミーティングや日々の話し合いの中で検討をしています。理念に「地域」という文言こそないものの、職員は地域の中で暮らす重要性を認識するよう心掛けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策もあり、ほとんど交流はできていないが、地区の回覧板で活動を報告したり、交流室の窓から掲示物などで活動を発信している。	コロナ禍により地域の行事の中止や、交流が困難な状況にあります。情報は自治会の回覧板や運営推進会議で得ています。道路側の窓に利用者の作品や習字等を掲示し、地域の方々に情報発信を行う等、今できることを工夫しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフに認知症サポーターを多く有しているが、直接的な地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に会議を行い事業所での取り組みや利用状況などを報告し、地域での高齢者の暮らしや公民館活動など多方面において話し合いをして、ご意見を活かせるように取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月毎に、コロナ感染対策を行った上で、行政・地域代表・家族代表等のメンバーで開催されています。利用者の状況や活動報告の後、出席者からの質問や意見交換が行われ、有意義な会議となっています。その中で、各地区の回覧板に事業所の広報誌と一緒に回すよう提案が出され実行しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所の窓口で、報告や相談をして、ご意見や助言を頂き、協力関係は築けている。	日頃より市担当者や地域包括支援センター職員と連携を密に図っており、事故報告・苦情等の相談、アドバイスを頂いています。また、2ヶ月毎に開催されるG・H連絡会の意見をまとめ市に報告し連携と情報共有に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所在確認や見守りの強化、センサーの設置等で身体拘束をしないケアの実践している。致し方なく玄関や窓を施錠する期間があったが、カンファレンスを重ね解除することができた。	年間研修計画の中に位置付けながら、職員の共有意識を図り、個別の状況に応じたケアを検討しています。言葉による抑制についても意識を高め、振り返りを行っています。現在は外部研修には参加できませんが、リモートや市の案内でDVDを借り研修に役立たせています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、毎月のミーティングで虐待行為に当てはまる行為がないか、スタッフ皆が確認作業を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し概ね理解はできているが、利用する方がいないため、実施経験はないが、利用の必要性のある方には活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は苦情申し立てや解約条件、入院時の待機期間なども重点をおいて説明している。また重要事項に看取りについての文言を追加し希望があれば看取り期の説明もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見は速やかにスタッフや代表に伝え、改善すべき項目には対応するように努めている。またご意見を伺えるように投書箱を用意している。	日頃より職員は利用者の思いを聞くように努め、外出や月1回の手作り食事の内容に反映させています。家族の意見・要望については、職員会議で話し合い運営に反映するとともに、管理者はまめに電話連絡を行い、信頼関係を築き家族の安心に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は主任や管理者を経て、出された提案や意見は受け止め、検討したうえで可能な案件は反映されている。	会議やミーティングで、それぞれの職員から要望や提案等が出され、活発に意見交換が行われています。日頃から管理者と話ができる環境にあり、個人面談も行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は就業において、スタッフ個人と面談をする機会をつくり、労働条件の説明と合意に努め、職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り個々のスキルアップの為、希望を考慮しながら研修参加の機会をつくっている。行事などの起案や実践など自発的に行動できるように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の連絡会に加入し、スタッフの合同研修の参加や、困難事例における相互の助言など、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談時に、ご本人やご家族から不安や要望を聴いて、入居後も日々の会話を通して、ご本人の訴えを傾聴し、話しやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っていることなど、要望を十分聞き取り、これまでのご苦労を労うような気持ちで接し、入居後も協力しあえる関係性を維持するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーはご本人やご家族が何を必要としているのか、それは今本当に必要なのかと、気持ちに寄り添いながらも、専門職として支援方法やサービスを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験や機能を発揮できる生活場面では出来ることは自身で行って頂いている。また他の利用者やスタッフを助け、手伝う様子も見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を理解し、その絆が良好に保てるような関係性を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と交流のある方との面会や文通、電話などで関わりを支援している。	コロナ禍により馴染みの方との面会が困難になっている現在、文通や電話・家族からの贈物等、今できることを工夫して関係継続の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご家族が対応できない課題やニーズにおいて例がないものでも、事業所でも対応できる最善のサービスを提供するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され終了になっても、その後の相談がしやすいように信頼関係を崩さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族より多くを聞き取り、困難な場合も身近に寄り添う担当スタッフが、ミーティングで思いを代弁するようにしている。	利用者との会話や、家族と面談をする中で、利用者の思いや意向を把握し、個別ケアに反映させています。職員は常に利用者の代弁者だということを念頭に支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録や日々の関わりの中で情報を集めている。また個々に暮らし方シートを作成して、スタッフ全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や様子などの現状を把握することに努めている。些細な変化でもすぐに報告し、他のスタッフにも申し送り、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングでスタッフは意見やアイデアを出し合っており、ケアマネージャーはモニタリングを行いながら、担当スタッフのアイデアを検討して計画を作成に反映させている。	3ヶ月に1回のモニタリングで担当職員・計画作成者(ケアマネージャー)を中心に、計画の見直しを含め、目標達成状況を確認しています。個別ケアや利用者の思い等も計画の中に反映させており、現状に即した計画の作成となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を詳しく具体化することで工夫や実践に反映し、それを共有することで、新しいニーズの発見や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応できない課題やニーズにおいて例がないものでも、事業所で対応できる最善のサービスを提供するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用や協働は困難だが、活用できる資源がないか探すように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を確認し、掛かりつけ医との関係を大切にして、適切な医療が受けられるようにしている。また必要に応じて専門医の受診ができるようにしている。	通常は1ヶ月に一回、協力医や利用者のかかりつけ医の、訪問診療を行っていただき心身の変化等があれば、職員や家族による通院や、適切な対応が出来るようケアマネージャー・看護師を含めて相談し、事業所で出来るだけの支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に心身の変化があれば、事業所内の看護師や訪問看護師に報告や相談をして、適切に処置や受診が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関と十分な情報交換を行い、速やかに治療が受けられ、また退院時もカンファレンスなどで退院後のケアについてもアドバイスを頂けるような関係性を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については契約時に説明をするが、必要な時期の早いうちにカンファレンスを行い、事業所でできることや医療機関との連携の必要性を説明して、ご本人やご家族の意向を組み入れた終末期ケアに取り組んでいる。	終末期を迎えた利用者は、家族・医療者・職員で密に連携を図り、出来るだけ看取りの支援を行えるよう、早期に話し合いをしています。ターミナルケアについての文書を作成して、看取りの後の職員のメンタルケアについて、反省会をして今後の支援につなげています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の対応の研修は行っているが、スタッフのスキルや経験なども違い、すべての職員が十分な実践力があるとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定して訓練を行っているが、地域との連携体制は十分ではなく、災害で身近な「停電時の対応」として訓練を予定している。	停電時を想定しての訓練は、今年中に行う予定ですが、周辺地域との協力体制は築かれておらず、台風や地震・火災などの発生時、職員の対応力が今後の課題となっています。	停電時に一番問題となるライフラインの不通時、利用者にとって何が一番必要かを見定めることが大切な要素です。水・食料などの備蓄品や冬季の寒さ対策など、具体的な案件として災害訓練に取り入れるのも今後求められると思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの価値観を大切にしながら、人格やプライドを傷つけないように、言動や行動に気を付けている。	スピーチロックにならないよう充分配慮し、利用者の思いや行動を妨げないよう努めています。名前で呼ばれるのを嫌がる利用者は、なぜ嫌なのかを理解した上で、その方の尊厳を傷つけないよう声かけをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや訴えに気づけるように、可能な限り、個別に関わり、自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活ペースや習慣を尊重し、その人らしい生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを意識して、洋服選びや理美容での本人の好みや拘りを尊重するようにしている。フェイスケアでの美顔なども提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や好評だったメニュー、また郷土料理を職員と一緒に楽しく調理する機会があり、片付けなども手伝って頂いている。	利用者本位の時間帯で、朝・昼・夕の食事は、ご飯と汁もの以外は配食で食べて頂いています。時には、職員が畑から収穫したばかりの新鮮な食材で季節の味を楽しんで頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を観察し、体重の推移を観察している。また栄養状態に応じ、不足分を補う栄養強化食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	専門知識のあるスタッフがデンタルチャートを作成し、スタッフも歯の状態や支援方法がわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ケアには細心の配慮を行い、排泄パターンの把握と一人一人に応じたパットの使い分けを行い、自立に向けた支援を行っている。	ほとんどの利用者は、自立で排泄可能です。トイレの前の部屋に利用者一人ひとりのパットやその方に必要な物が保管されているので、排泄パターンを把握した上で声かけしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録により排泄状況を把握して、水分量を増やしたり、運動やストレッチなどの声掛けをしている。また必要に応じて腹部マッサージや緩下剤を用い排便管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数や時間は設定しているが、本人の希望により、その日の体調や気分を伺いながら柔軟に対応している。入浴を楽しめない方には時間をずらし、声掛けをするスタッフを替えたりして工夫している。	週三回の入浴となっていますが、変更になる事もあり利用者本人の希望に、添えるようになっています。声かけやプライバシーに配慮して楽しく入って頂けるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎週シーツを交換して気持ちよく眠れるように環境を整えている。生活習慣や体調、体力なども考慮し、良肢位を保ち、クッションなども用い、休息と活動のバランスに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変化があれば、看護師が常に服薬ファイルを修正しており、服薬ファイルに沿って用途や容量、用法などを確認して服用して頂いている。症状の変化にも気づけるように心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴より趣味や特技、興味のあるものを個別ケアに取り入れて、集団レクも毎日良好な関わりが保てるように実施している。また近隣の散歩や隣の小学校行事の応援などを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策で外出はできておらず、受診のための外出に留まった。天気の良い日の外気浴やドライブ、散歩など季節や景色を感じて頂けるように心掛けている。	コロナ禍のいま、通常の外出は殆んど出来ていませんが、季節ごとの自然の風景や行事を、少人数でのドライブで、外出を実施していません。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方にはお金を所持して頂いて自由に使えるようにしている。また外出時に買い物で自ら支払いをする機会をつくり、希望により支払い支援や買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話は操作が可能な方は所持して頂くようにしている。また固定電話の取次や手紙などの郵便物や宅配物などの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースは室温や湿度などを管理し、安全で明るい環境を整えている。季節の花や飾りつけをし、季節感が味わえる心地良い空間づくりに努めている。	共有スペースは、コロナ禍のいま特に換気や温湿管理にいつも以上にこまめに対応しています。利用者楽しく過ごして頂けるよう、季節ごとに利用者の描いた絵や習字を壁に飾って、皆さんに見て頂いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりで過ごされたいときは居室やソファで過ごされ、気の合う人同士ではダイニングで会話やテレビを楽しんで頂くなど、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物、大切にしている好きなものを身近に置くことで、自宅での暮らしの延長を配慮し、安心して過ごして頂けるように工夫している。	居室は、家族の思い出の写真を見やすい場所に飾り、大切な思い出を利用者が感じられるようにしています。テレビを置き絵を飾り、居心地の良い部屋作りをして頂くよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分かりやすいように目印や案内を表示している。居室やトイレの場所もご本人の状態に応じて、配置し安全で使いやすく自立した生活が送れるように工夫している。		